

冬鳥を迎える私たちのニッポンは…



春はウグイスやヒバリのさえずり、夏は

バメの姿やカッコウの声、秋のモズの高鳴き、冬のカモやハクチョウの渡来、野鳥は季節の移りかわりに敏感な生きものはありません。山や水辺はもちろん、自然が少ない都会でも、ちょっと気をつけてみれば、私たちに季節感を味わってくれます。

日本の野鳥は約500種が記録されています。

のですが、日本の領土の37万平方キロあまりといふ面積を考えると、50万平方キロの島は決して少ない數ではありません。そのわけは、日本列島が北半球の中くらいの緯度に位置し、南北に長いえ、地形的に見て、も、山岳地帯あり、河川あり、

春から秋のはじめに日本へ来て、あのささえすりて
私たちも楽しませてくれた「夏島」たちが
ひつそりと南へ渡つて、
つたあと一月の声をきくこと続き
と冬のトリだちが登場してきます。
オオハクチヨウ、コハクチヨウなどのハクチヨウ

日本へやつてきて冬を越すトリです。このは
スカなどと卵を産み、ヒナを育て、秋になると
ミヤマホオジロなど91種類が、代表的な冬鳥
です。彼らは日本よりも北のシベリアやアラ
ツギなど、オナガガモ、スズガラサモなどのカモ類、ナ
ガモ、オナガガモ、スズガラサモなどのカモ類、ナ
トリ、マイヅルなどのツル類、それからツケイ
ヤク、ショウジョウタカ、コレンショウジョウ、
シマエナガなどのツバメ類、キジ類など、多くの
鳥たちが日本を訪れます。

（おどりでくるウグイス、ルリビタキ、ウソ、南シマンドミ冬を越すシメ、マヒド、オオジヨウ、ベニマコなど）を、ほとんど同じく地方に棲み、あまり移動をしない「留鳥」（スズメ、シジュウカラ、ホオジロ、メジロなど）も、元気な姿を見せてくれるでしょう。

日本のトリが生息するさまざまな環境を、より良いかたちで保存し、こまごない手をつけていくことを、鶴箱をかけてやつたり冬にエサを与えたりする以前の、野鳥保護の考え方です。冬鳥を迎える、あなたのまわりの環境は、いま、どんな状態になっていますか。

ヒトの心に

財団法人 日本鳥類保護連盟
サントリ一株式会社

●この広告は、日本鳥類保護連盟の指導を得て、サントリ一株式会社がシリーズとして制作し、原則として毎月第三日曜日に掲載いたします。

●自然の一員としてのヒトの義務　愛鳥キャンペーン
ヒト自身の生存と、生命への愛情をはぐくみ、次の世
それが自然保護です。私たちが、この新聞広告や、全国名
の森づくりの運動を通じて展開している「愛鳥キャンペー

代へ引き継ぐための大きなテーマ：各地のバード・サンクチュアリー（野鳥センター）も、自然保護の精神から出発

しています。
これ以上こわ
に関するいろ
自然環境づく

トリの生命を護る
さすに護り育てよ
うな問題に取り
くり運動を：皆さよ

ことがヒト自身を
うという社会環境
組んでまいります

を守ることであり、か
境づくりを目指して、
ヒトの心にトリの個
支援をお願いいたします

けがえのない自然を
これからも自然保護
区をより良い

88